

J A 自己改革推進レポートについて

令和 2 年 7 月 2 7 日
J A 鳥取県中央会

1. 新型コロナウイルス対策「J A グループ鳥取 牛乳・乳製品消費拡大運動」の取り組み状況

新型コロナウイルス感染拡大によって需要減の影響を受けた鳥取県産畜産物の消費拡大運動として、6月の「牛乳推進月間」に合わせ、3 J A と大山乳業・白バラ商事が連携し、牛乳・乳製品の職員・関係者への斡旋販売に取り組んだ。「牛乳セット」と「スイーツセット（ヨーグルトセット）」を企画し、合計金額 1,358,680 円の実績となった。商品企画内容、組合員への斡旋など各 J A それぞれの特色ある取り組みが展開され、今後も継続してほしい等、購入者の声も好評なものであった。

なお、J A 鳥取西部は同様の取り組みを 4 月にも実施している。

【牛乳・乳製品消費拡大運動実績】

J A 名	担当部署	6 月取扱実績	備 考
J A 鳥取いなば	経済部	576,180 円	
J A 鳥取中央	営農企画部	314,000 円	
J A 鳥取西部	営農部	349,700 円	4 月実績 189,700 円
連合会・中央会・関連団体	各団体	118,800 円	
合 計		1,358,680 円	

2. 令和 2 年度 農業者人間ドック受診助成事業の取り組み状況

「農業者人間ドック助成事業」については、3 J A と連合会が一体となって平成 30 年度より実施しており、県内農業者の人間ドック受診を推進することで、農業者の健康増進と意識付けを図り、将来にわたって安定的な農業生産活動に資することを目的としている。

本年度は新型コロナウイルスの影響で人間ドック受診者の減少が懸念されたが、本事業においては大きな影響は見られず、リピーターも増加して前年を大きく上回る進捗状況となっている。

申請締め切り(10 月末)に向け、各 J A と連携し、機関紙への掲載を実施するとともに、全職員が対話運動および各事業推進のアプローチツールとして農家組合員への周知を図る。

【令和 2 年 6 月末 農業者人間ドック助成事業進捗状況表】(前年同時点の比較)

	J A 名	鳥取いなば	鳥取中央	鳥取西部	合 計
申請件数 (件)	本年度	15	12	10	37
	前年度	15	2	0	17
申請金額 (円)	本年度	177,500	158,500	157,380	493,380
	前年度	176,000	33,000	0	209,000

3. J A 自己改革実践状況

(1) JA鳥取いなばの取り組み

① らっきょう組合長会が県庁を表敬訪問

福部らっきょう生産組合長会の宮本組合長は6月17日、鳥取県庁や市役所を訪れ、洗いらっきょう10kgを贈呈した。

らっきょうの販売やらっきょう根葉切り機の開発、品質向上に向けた施設整備の支援など様々な協力を得ていることから毎年訪問している。令和2年産砂丘らっきょうの販売の終盤を迎え、感謝の意と情勢を報告した。

鳥取県農林水産部の西尾部長は「鳥取の重要特産物であるらっきょうを贈呈していただき、ありがたい。厳しい環境のなかで県としても微力ではあるが生産に協力したい」と感謝を述べた。



② 智頭産リンドウ選花開始

智頭支店は6月19日、特産「智頭リンドウ」の選花作業を八頭郡智頭町にある智頭花き集出荷施設で開始した。初選花には、鮮やかな濃い紫に色付いた約700本が持ち込まれた。

今年の生育は病害虫の影響が少なく、暖冬傾向により順調に進んでおり、花付きや花色・葉色とも良く、上々の仕上がりになっている。出荷のピークは需要期となるお盆前で姫路、福岡、広島市場に10月下旬まで出荷する。同JAでは期間中、10万本、約600万円の出荷・販売を目標に取り組む。



③ 涼で新型コロナウイルスを吹き飛ばす

郡家支店は、来店した組合員・利用者を職員15人が浴衣姿で出迎え、窓口業務を行った。

この取り組みは、支店行動計画の一環として、同支部女性会の着付けグループと連携し、普段とは違う姿を披露することで多くの人に来店してもらい、少しでも涼を感じてもらおうと毎年実施している。来店客からは「いつもと雰囲気違って良い」「涼しそう」と好評であった。



④ 継続は力 女性会の意見をJA事業の力に

J A鳥取いなば女性会は6月24日、同J A役員との懇談会を鳥取市のJ A本店で開いた。

女性会役員と同J A役員など30人が出席し、J A事業の取り組みについて、女性会役員らが利用する立場で感じる女性視点の意見を代表して伝え、意見交換した。

女性会の前田会長は「会員の意見要望を役員に直接伝えられる良い機会。継続して要望を伝え、J A事業の向上につなげたい」と話した。



(2) J A鳥取中央の取り組み

① 鳥取短期大学・鳥取看護大学の学生に特産品を進呈！（コロナ禍の学生を応援）

新型コロナウイルスの影響を受けている地域の学生に向けた応援プランを企画した。特産の野菜・果実の提供や旬のスイカの試食会を行い、活動の内容を学生らにSNSで発信してもらうことで、特産品のPR・消費拡大に繋がっていく。

6月3日には倉吉市の鳥取短期大学と鳥取看護大学の学生らに栗原組合長と戸田勲常務が特産品を進呈した。

両大学の一人暮らしや寮生活を送る学生約200人が対象で、学生一人に対し米「星空舞」2kg・プリンスメロン1玉・大原トマト2玉・神倉大豆を使った水煮「神のつぼみ」1袋を提供した。

食費や携帯代金などをアルバイトから算出している学生も多く、コロナ禍でアルバイト収入が減り、切り詰めて生活している学生も少なくないという。一人暮らしをしている看護学生は「親から仕送りしてもらう食材などで日々の食事を考えている中で、地元の素晴らしい食材を頂けて凄く助かった」と話していた。

栗原組合長は「コロナ禍の中でも農家は食と命を守るために良品多収な農産物の安定供給を目指している。農家の苦労や努力を感じながら感謝の気持ちを込めて食べて欲しい」と呼びかけた。



② 組合長が担い手訪問！（役員による対話運動）

組合員との対話の充実を図るため、栗原組合長が組合員のもとへ訪問し意見交換した。

この日は倉吉スイカ生産部会の副会長と倉吉秋冬野菜生産部の役員のもとを訪れ、JAに対する意見や現在の生育状況などについて聞き取りを行った。

副会長からは「新規就農者の受入課題」について、秋冬生産部役員からは「JA営農指導員の指導体制の強化」などの相談や要望が挙げられた。栗原組合長は「組合員の状況と意思を把握し、今後のJA施策に反映させていく」と話した。

今後も継続的に訪問し対話を通じてJAの取り組みについて理解を深めて頂き、JA事業の改善に活かしていく。併せて組合員のニーズに対応して行く方針で、基本的に生産者からの希望に応じて営農支援職員を派遣し、急な病気などで作業が困難な場合には優先的に支援していく。



③ 「鳥取らっきょう」「鳥取スイカ」を人気動画クリエイターのSNSで紹介！ (販売戦略のSNSでの反響大)

県産物のPRが若年層の目に留まることで新たな消費者・ファンを獲得するために、人気動画クリエイターによるSNSでの発信を行った。

第一弾はインスタグラムで「腸活」をテーマに鳥取県産らっきょうを取り上げた。疲労回復の効果や食物繊維が豊富といったらっきょうの効能や、料理のアレンジ方法としてらっきょうを使ったタルタルソースのチキン南蛮を紹介した。

第二弾はツイッターで特産のスイカをPRし、フォロワー111万人に発信され注目を集めた。栗原組合長は「予想以上の反応に驚いている。出荷のピークを迎え購買力の増大に期待したい」と話し、梨などの特産品でも活用を検討している。

6月下旬からは、クリエイターの写真付きのポップを全国の主要量販店掲示を予定していて、更なる消費者拡大とファンの獲得を目指す。

JA鳥取中央は県内有数のスイカの産地を抱え今シーズンは販売金額31億円を目指す。新型コロナウイルスの影響で県外の大消費地での販売に苦戦している。このピンチをチャンスに変えるため、SNSを販売活動に取り入れることで若年層への周知拡大を期待している。



同JAでも5月から公式インスタグラムを開設した。旬の農産物の情報やイベントのPR・ハッシュタグを活用したキャンペーンなどを打ち出しながら発信していく。

・「鳥取らっきょう」投稿画面→ www.instagram.com/p/CBNkB-IpLfd/

・「鳥取スイカ」投稿画面→ twitter.com/seikintv/status/1273814067208024066

(3) JA鳥取西部の取り組み

① 地元特産もっと知って、食育授業

6月5日、中山小学校の総合学習の授業に協力し、地元の特産「大山ブロッコリー」の食育授業を行った。

3年生28人に大山ブロッコリーの栽培方法や流通、お勧めの食べ方などを分かりやすく紹介した。面白いクイズや大山ブロッコリーのゆるキャラの缶バッジプレゼントなども取り入れ、児童らは楽しみながら大山ブロッコリーへの理解を深めた。



② 新型コロナウイルスで施設見学中止。ビデオで社会科見学

白ネギ共同選果場は例年、社会科見学として地元小学生を年間800人ほど受け入れているが、今年は新型コロナウイルス感染症対策のために全て断っている。

そのような状況の中、弓ヶ浜小学校教員から「社会科見学に行けない児童のため、ビデオ撮影し、街しらべ学習に役立てたい」との申し出があり、6月14日、教員3名の施設見学を受け入れた。

白ネギの選果や箱詰め作業の様子、施設担当者へのインタビューなどを教員が撮影し、編集した約40分のビデオ教材が授業で活用され、児童の地元農業への関心を高めた。



③ 小学生がJA支所見学 地域の仕事を学ぶ

大山小学校の児童が6月25日、地域の店や施設などを見学する校外学習授業の一環として大山支所を訪れた。

訪問した児童に対し、JAは農家や地域を支える仕事を行っていることを分かりやすく伝えた。



④ 腰痛の予防・軽減で生産者を支援

生産者や西部農業改良普及所、鳥取大学医学部、JA鳥取西部などで構成する白ネギ作業改善プロジェクトチームは、白ネギ生産者の腰痛の予防や軽減などを目的とした「腰ラクラク白ネギ体操」を考案し、リーフレットを作成した。

リーフレットでは器具などを使わず畑や家などで無理なく短時間で行うストレッチや筋力トレーニングなどを紹介しており、講習会などで参加者に配布し活用を呼びかけていく。



(4) 中央物流センターが全地域で稼働開始！（JA全農とっとり）

中央物流センターは、令和元年10月よりJA鳥取中央・中央営農センター管内と湯梨浜営農センター管内で先行して稼働していたが、令和2年7月より琴浦営農センター管内および北栄営農センター管内を加え、全地域稼働となった。

同センターでは物流の合理化による事業見直しとともに生産資材価格の抑制を目的として、肥料倉庫の管理・運営と、農薬の予約戸配送のためのピッキング作業、組合員宅への戸配送を行っている。

今後はさらなる生産資材の安定的かつ継続的な供給体制の確立と組合員の利便性向上を目指して、県域物流の拠点づくりにつながるよう取り組んでいく。



ピッキング作業準備の様様

(5) 農機センター職員融資研修会への講師派遣（JA鳥取信連）

令和2年7月2日（木）、3日（金）にJA鳥取いなばにて開催された「農機担当者 融資（ローン）・JA共済商品研修会」へ本会農業金融センター職員を講師として派遣した。

当JA融資管理課と事前に打合せを行い、農業機械等の購入希望農業者と最初に接点を持つことが多い農機センターの職員である受講生42名に対し、各農業資金の特徴、資金コーディネート、Q&A、融資事務の流れなどを説明した。

農業資金の説明では、農業経営のバックアップとしてJAバンクが利子補給・保証料助成を行っている農業近代化資金について重点的に理解を深めてもらい、農業者のニーズに応えた資金調達時のアドバイスを行っていただけるように研修した。

（6）新型コロナウイルス感染症予防対策の取組み（JA共済連鳥取）

鳥取県内においては新型コロナウイルスの感染者が少数にとどまっているが、今後、感染予防資材の不足が予想される県内の高齢・介護・障がい・養護・母子等の福祉対象者ならびに関連施設等へ感染予防対策の支援として、3JAとJA共済連鳥取の4団体で「マスク」10,000枚と「衛生除菌水（20ℓボックス）」100個を社会福祉法人鳥取県社会福祉協議会（以下、県社協）へ贈呈した。

県社協を通じ、県内各市町村の介護施設や保育園など77箇所の社会福祉施設へ配布し、感染予防対策に活用される。

引き続きJA共済では、地域の皆様の安心・安全な生活環境づくりに貢献するため様々な地域貢献活動に取り組んでいく。



贈呈式の様子（令和2年6月10日）
左から藤井会長（県社協）・谷本会長・森山本部長

JA共済の
地域貢献活動

©2017 JA-KYOSAI

